国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和２年９月３日
水管理・国土保全局
気象庁

台風第 10 号の今後の見通し（進路・暴風・河川の増水・氾濫など）について

強い台風第１０号は、今後特別警報級の勢力まで発達し、５日から６日にかけて沖縄地方に接近する見込みです。その後も特別警報級の勢力を維持したまま北上を続け、６日から７日にかけて奄美地方から九州に接近または上陸するおそれがあります。

９月３日 17 時現在の台風第 10 号の今後の見通しや留意事項について別添の通りお知らせいたします。

問い合わせ先				
国土交通省水管理・国土保全局河川環境課	代表	03-5253-8111	直通	03-5253-8448
	ＦＡＸ	03-5253-1603		
気象庁予報部予報課	代表	03-3212-8341	直通	03-3211-8303
	ＦＡＸ	03-3211-8303		

令和２年９月３日17時00分
水管理・国土保全局
気象庁

台風第１０号の今後の見通し（進路・暴風・河川の増水・氾濫など）について

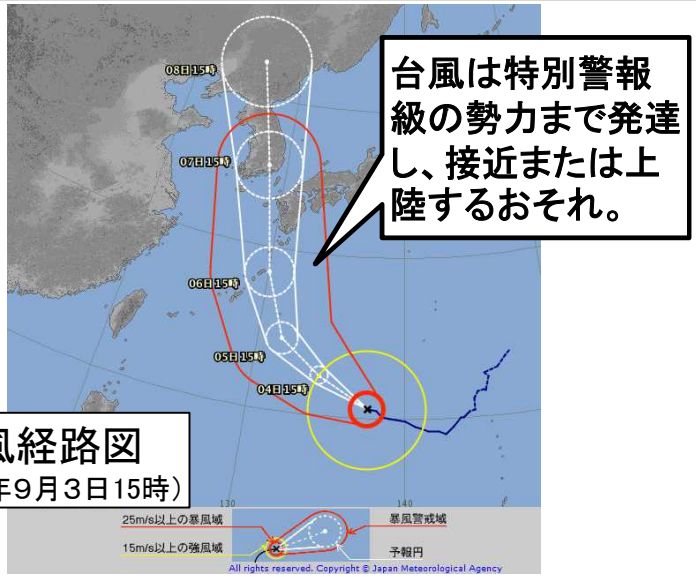
台風第１０号の今後の気象見通しについて（９月３日）

強い台風第10号は、今後特別警報級の勢力まで発達し、５日から6日にかけて沖縄地方に接近する見込みです。その後も特別警報級の勢力を維持したまま北上を続け、６日から7日にかけて奄美地方から九州に接近または上陸するおそれがあります。台風の予報にはまだ幅がありますが、広い範囲で甚大な影響を受けるおそれがあります。

台風が接近する地域では、記録的な大雨・暴風・高波・高潮となるおそれがあり最大級の警戒が必要です。明日４日（金）までに台風への備えを終わらせるようお願いいたします。

気象庁の発表する最新の台風情報に留意するとともに、各地の気象台の発表する早期注意情報や警報・注意報などの気象情報に留意し、自分の命、大切な人の命を守るため、早めの対策をお願いいたします。

※お住まいの場所が安全な場所か否かハザードマップなどで改めて確認し、安全ならば自宅内での安全確保を、危険な場合は指定された避難場所への移動のほか、安全な親戚・知人宅等への移動も考えてください。新型コロナウイルス感染の懸念もありますが、危険な場所にいる人は自宅の外への避難をためらわないでください。



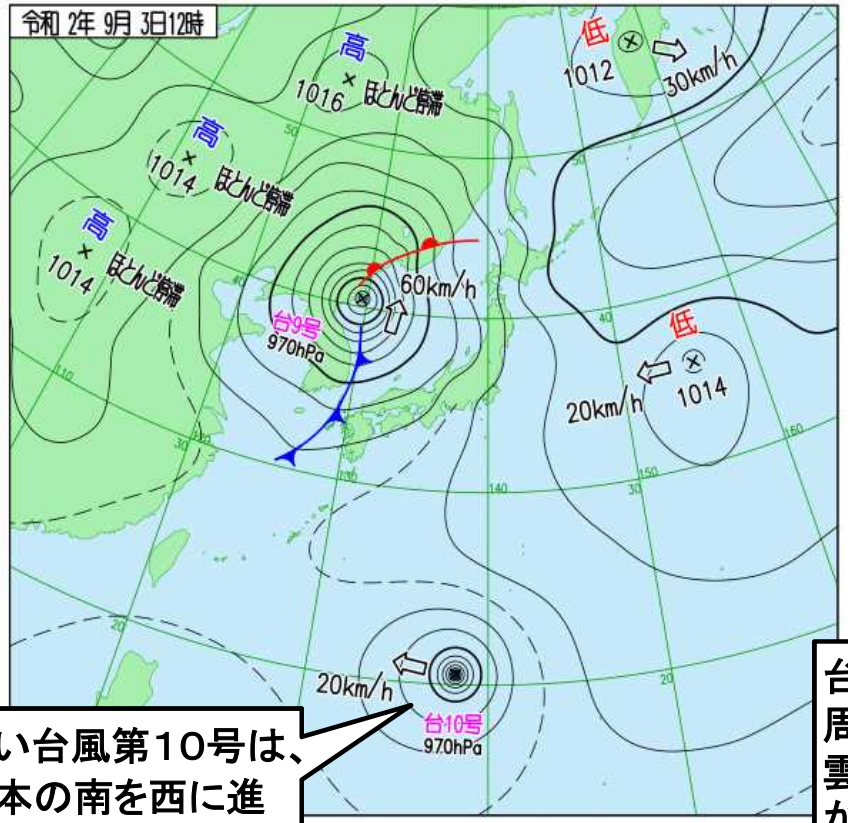
台風経路図
（令和2年９月３日15時）

【台風の見通し】

強い台風第10号は、３日15時現在、日本の南にあって西北西に進んでいます。今後、次第に北よりに進路を変えて、特別警報級の勢力まで発達し、５日から6日にかけて沖縄地方に接近する見込みです。その後も特別警報級の勢力を維持したまま北上を続け、６日から7日にかけて奄美地方から九州に接近または上陸するおそれがあります。

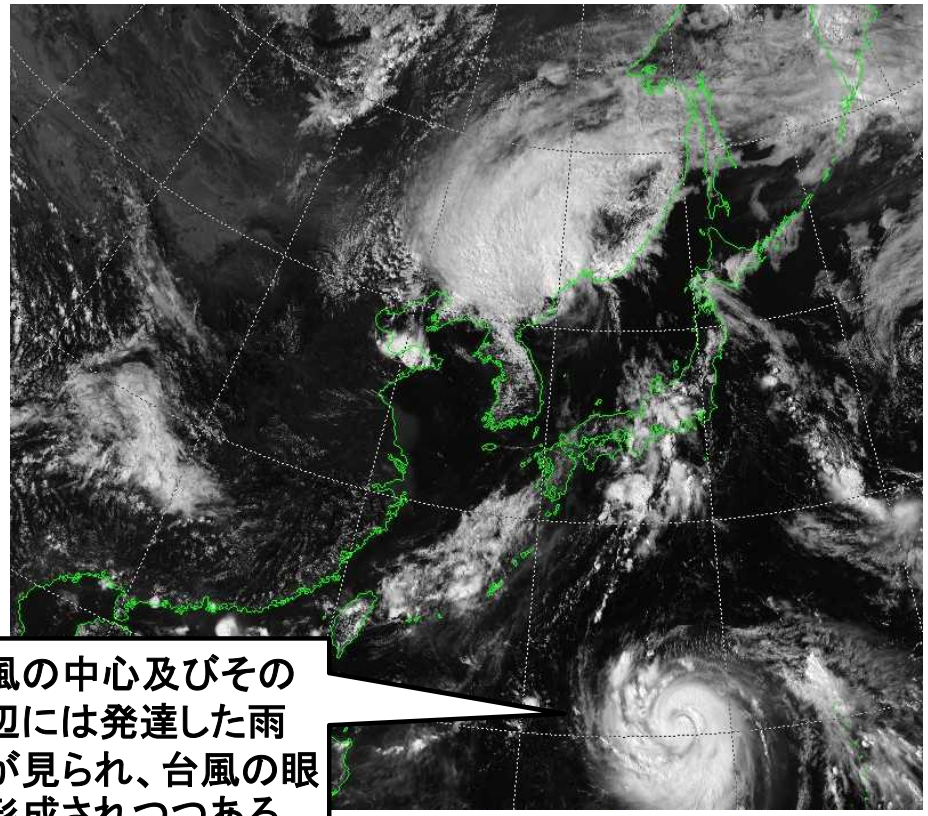
天気図と衛星画像

９月３日
１５時時点の資料



強い台風第１０号は、日本の南を西に進んでいる。

３日１２時
天気図



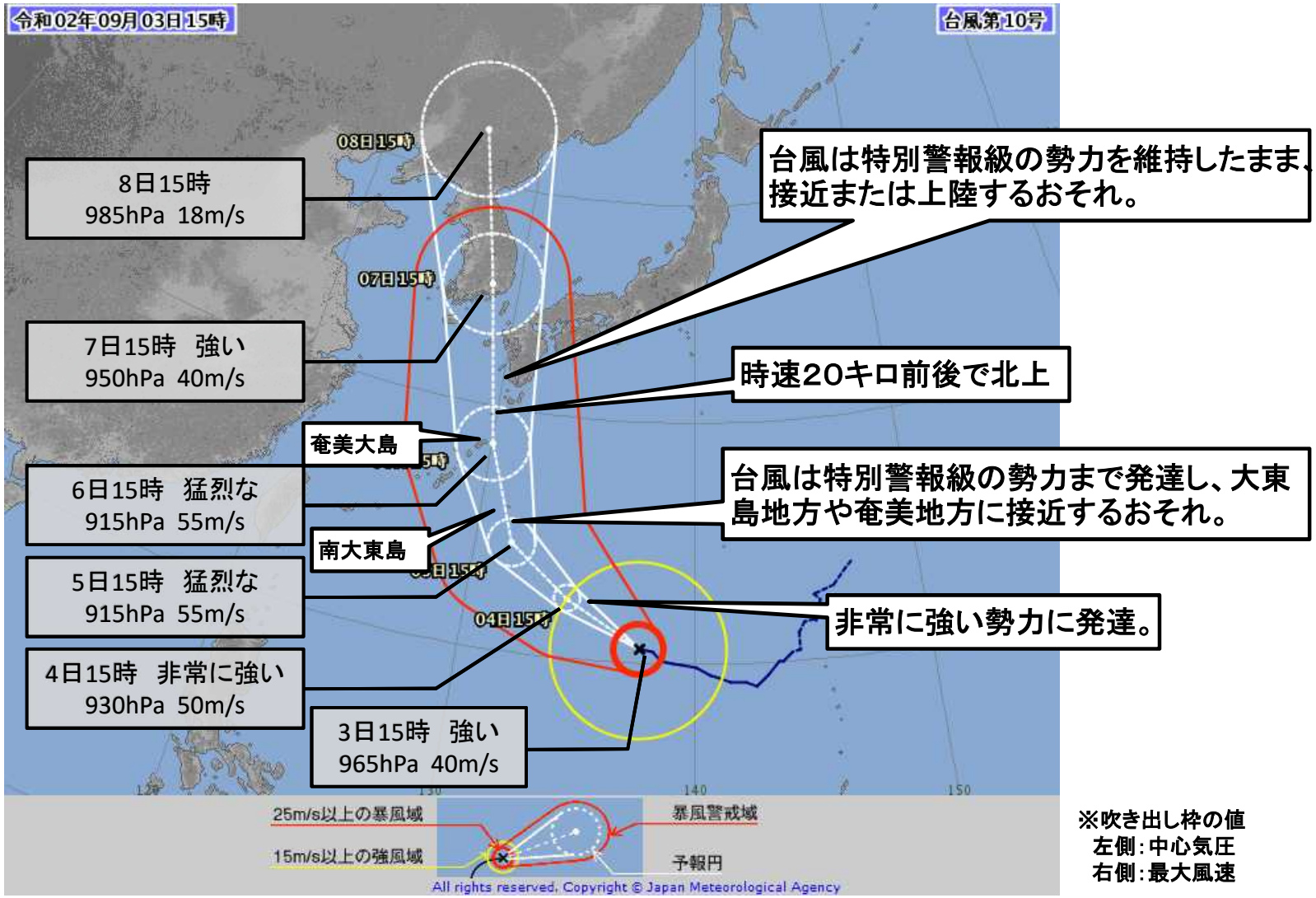
台風の中心及びその周辺には発達した雨雲が見られ、台風の眼が形成されつつある。

３日１５時００分
衛星画像（可視）

今後の予想を含めた最新の情報は各地の気象台が発表した気象情報をご利用ください。
（天気図：　https://www.jma.go.jp/jp/g3/index.html　）
（衛星画像：　https://www.jma.go.jp/jp/gms/　）

台風の進路予想

９月３日
１５時時点の資料



※吹き出し枠の値
左側：中心気圧
右側：最大風速

台風第10号の進路予想図（3日15時）

今後の予想を含めた最新の情報は、各地の気象台が発表した気象情報をご利用ください。
（台風情報：https://www.jma.go.jp/jp/typh/　）

大雨・暴風・高波・高潮の今後の見通し

〇沖縄地方
　４日は風が強まり、海上では大しけとなるでしょう。５日から６日は暴風や猛烈なしけ、警報級の大雨、高潮のおそれがあります。
〇奄美地方、九州南部、九州北部地方
　５日は、海上では大しけとなる所があり、６日から７日は暴風や猛烈なしけ、警報級の大雨、高潮のおそれがあります。なお、奄美地方では５日は風が強くなるでしょう。
〇四国地方から伊豆諸島
　６日から７日は警報級の高波、四国・中国地方では暴風や高潮のおそれがあり、太平洋側を中心に４日から７日にかけて警報級の大雨のおそれがあります。

【大雨の見通し（台風最接近前）】（単位：ミリメートル）

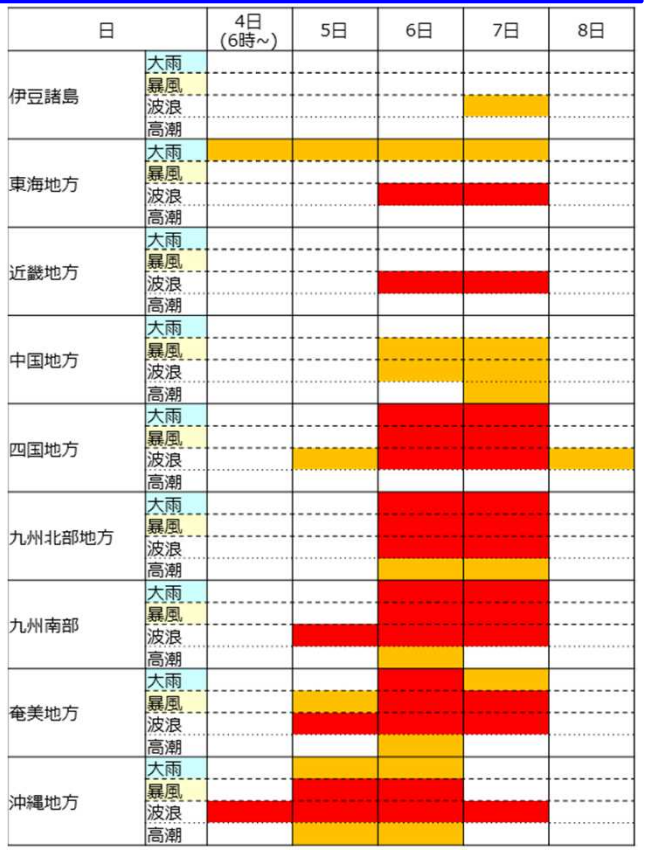
※この後も更に大雨は続く見通しであることに留意

地域	３日18時～４日18時の24時間雨量	４日18時～５日18時の24時間雨量	５日18時～６日18時の24時間雨量
東海地方	１００	５０～１００	１００～２００
四国地方	５０	およそ５０	１００～２００
九州北部地方		およそ５０	１００～２００
九州南部		およそ５０	２００～３００
奄美地方		５０～１００	２００～３００
沖縄地方	５０	１００～１５０	２００～３００

【暴風・高波の見通し（台風最接近前）】（単位（風）：メートル毎秒　（波）：メートル）

※この後も更に暴風・高波は続く見通しであることに留意

９月５日にかけて予想される風と波					
地域	最大風速（最大瞬間風速）	波の高さ	地域	最大風速（最大瞬間風速）	波の高さ
奄美地方	２０～２４（２５～３５）	8	沖縄地方	４０～５０（５５～７０）	１４



大雨、暴風、波浪、高潮の警報級となる可能性のある期間（3日17時時点）

（■可能性がある、■可能性が高い）

※最新の「早期注意情報」等をご確認ください！

台風の接近に伴う河川の増水・氾濫に警戒

- 強い台風第１０号は、６日から７日にかけて奄美地方から九州に接近または上陸し、記録的な大雨になるおそれ。
- 今後、台風に伴う大雨による河川の増水・氾濫や台風の接近による高潮が発生する可能性があります。市町村が作成している洪水ハザードマップなどを確認し、浸水の可能性や避難する場所・経路等を把握するとともに、避難への備えを行ってください。

  ※洪水ハザードマップのもととなる洪水浸水想定区域では、想定される最大浸水深のほか、氾濫流による家屋の倒壊が想定される区域などがご覧になれます。
- 台風の接近する地域では、河川の増水・氾濫等の際には、暴風により移動できなくなることも考えられるため、風が強くなる前に安全なところへ避難するなど早めに身の安全を確保してください。海岸や河口付近の低地では、高潮による浸水や冠水に注意してください。
- また、九州などでは、ダムの「事前放流」を実施する予定です。

  河川によっては、大雨になる前のまだ晴天である時点から「事前放流」により河川の水量が増えることが見込まれるため、見た目の天候に囚われずに、できるだけ河川内には留まらない・立ち入らないようにするなど、身の安全の確保にご注意ください。

  ※事前放流は、河川の水量が増える前にダムから放流して、大雨時により多くの洪水をダムに貯められるようにダムの貯水位　を下げておくことです。
- 河川の水位や危険性の情報を「川の防災情報」や「危険度分布」「ハザードマップポータルサイト」などで確認することができます。（国土交通省・気象庁等のHP参照）
- 気象・河川の情報や市町村の避難情報に留意し、早めの行動に心がけてください。

以下　補足資料

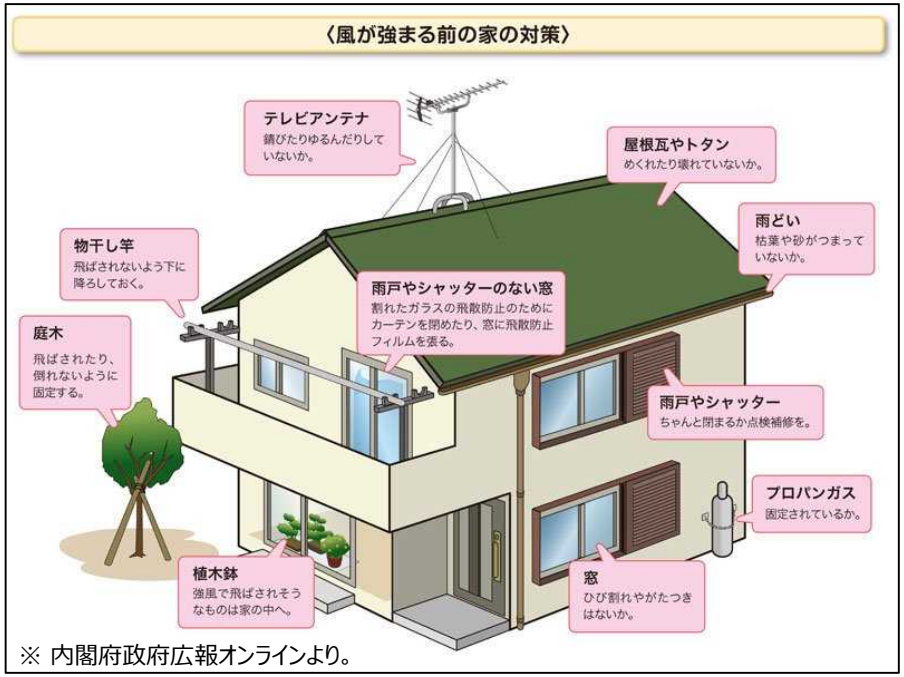
段階的に発表される防災気象情報の活用例

「避難勧告等に関するガイドライン」（内閣府）に基づき気象庁において作成

※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、避難準備・高齢者等避難開始（警戒レベル3）に相当します。
※2 暴風警報が発表されている際の高潮警報に切り替える可能性が高い注意報は、避難勧告（警戒レベル4）に相当します。

暴風による災害への備え

- 暴風が実際に吹き始めてからでは、屋外での行動は命に危険が及びます。
- 特に土砂災害や洪水、高潮のおそれがある区域では、風雨が強まる前の早めのタイミングで対応をとることが重要です。
- 風雨が強まるタイミングは、市町村毎に発表される警報・注意報で確認することができます。



※ 内閣府政府広報オンラインより。

平均風速（m/s）おおよその時速	人への影響 走行中の車	屋外・樹木の様子	建造物	おおよその瞬間風速（m/s）
20～25 ～約90km/h	何かにつかまっていられないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。	30
25～30 ～約110km/h			養生の不十分な仮設足場が崩落する。	40
30～35 ～約125km/h				
35～40 ～約140km/h	走行中のトラックが横転する。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	外装材が広範囲にわたって飛散する。	50
40～ 約140km/h～			住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	60

※ 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。
※ 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。
※ 詳細は気象庁ホームページを御確認ください。（https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/amekaze/amekaze_index.html）

（参考）近年の主な暴風による災害

平成30年台風第21号

- 大阪府田尻町関空島（関西空港）では最大風速46.5メートル、最大瞬間風速58.1メートルを観測。

- 死者14人、負傷者980人、住家全壊68棟、半壊833棟、一部損壊97,009棟等の被害が発生。
  ※総務省消防庁とりまとめ（令和元年8月20日現在）
- タンカーが走錨し、関西国際空港連絡橋に衝突したことにより、空港へのアクセスが制限されるなど、人流・物流等に甚大な影響が発生。
  ※荒天時の走錨等に起因する事故の 再発防止に係る有識者検討会 報告書（平成31年3月）
- 近畿地方を中心に最大停電戸数約224.7万軒の大規模停電が発生した。
  ※台風21号による停電について（第56報）関西電力（平成30年9月10日）

令和元年房総半島台風

- 千葉県千葉市では最大風速35.9メートル、最大瞬間風速57.5メートルを観測。

- 千葉県を中心に、住家全壊391棟、半壊4,204棟、一部損壊72,279棟等の被害が発生。
  ※総務省消防庁とりまとめ（令和元年12月23日現在）
- 鉄塔２基の倒壊、1,996本の電柱が倒壊・損傷により、千葉県を中心に最大停電戸数約93.5万軒の大規模停電が発生した。
  ※令和元年台風15号における鉄塔及び電柱の損壊事故調査検討ワーキンググループ＜中間報告書＞（令和2年1月21日）

令和元年房総半島台風
（経済産業省提供資料）

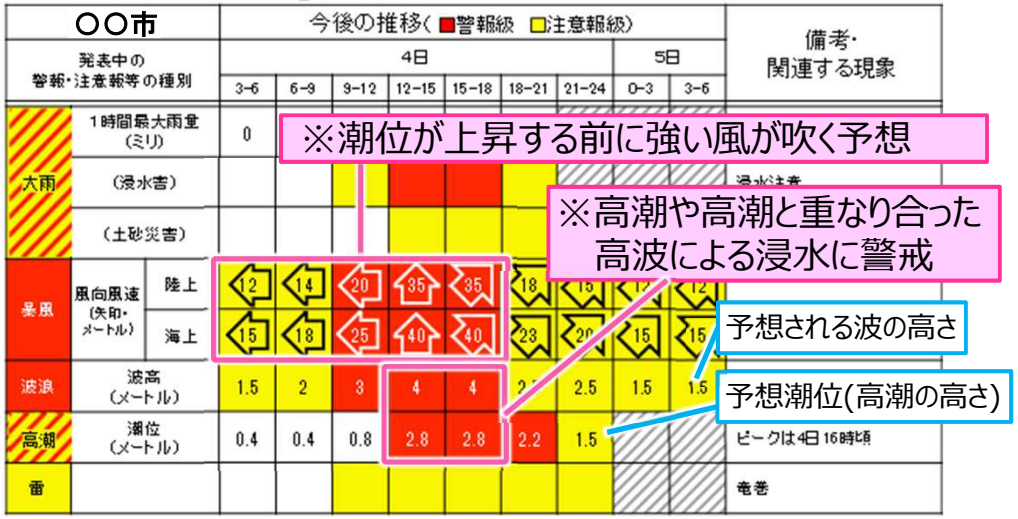
平成30年台風第21号
（海上保安レポート2019より）

令和元年房総半島台風
（気象庁職員撮影）

高波・高潮による災害への備え

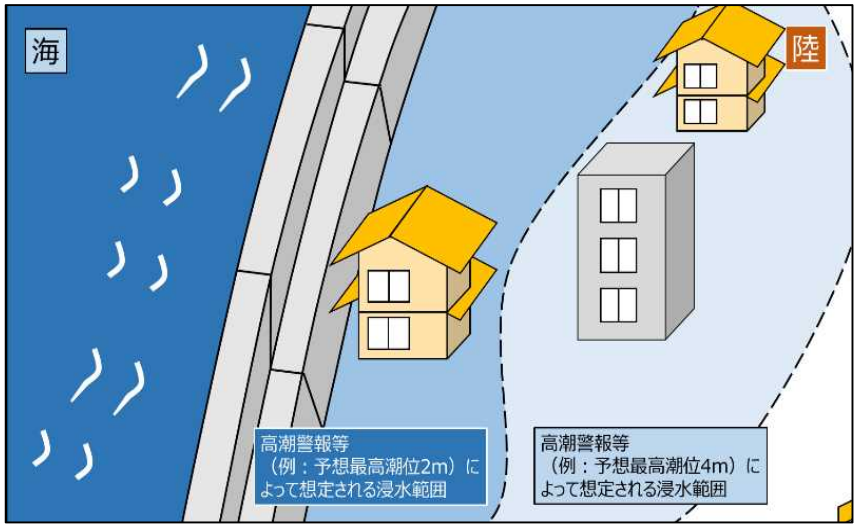
- 台風の接近に伴い、沿岸では命に危険を及ぼすような高波や高潮のおそれがあります。特に、高潮で潮位が高くなっている時は、普段は波が来ないようなところまで波が押し寄せる事があります。むやみに海岸には近付かないでください。
- 高波や高潮に警戒が必要なタイミングは、市町村毎に発表される警報・注意報で確認することができます。
- 暴風が実際に吹き始めてからでは、屋外での行動は命に危険が及ぶため、特に高潮時に浸水のおそれがある区域では、風雨が強まる前のタイミングで対応をとることが重要です。

波浪・高潮注意報等で今後の推移について確認



○○市			今後の推移（■警報級 □注意報級）									備考・関連する現象
発表中の警報・注意報等の種別			4日							5日		
			3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	
大雨	1時間最大雨量（ミリ）		0									
	（浸水害）											浸水注意
	（土砂災害）											
暴風	風向風速（矢印・メートル）	陸上	12	14	20	35	35	18	15	15	12	
		海上	15	18	25	40	40	23	20	15	15	
波浪	波高（メートル）		1.5	2	3	4	4	2.5	2.5	1.5	1.5	
高潮	潮位（メートル）		0.4	0.4	0.8	2.8	2.8	2.2	1.5			ピークは4日16時頃
雷												竜巻

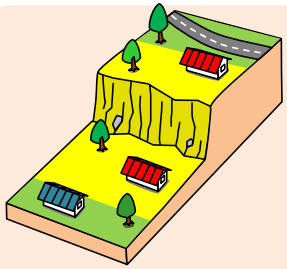
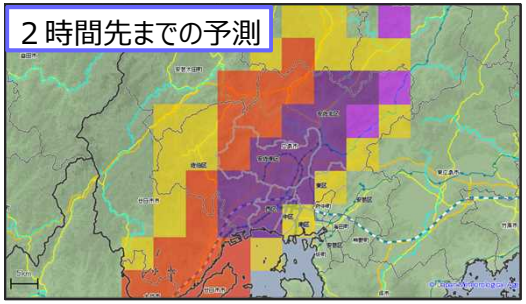
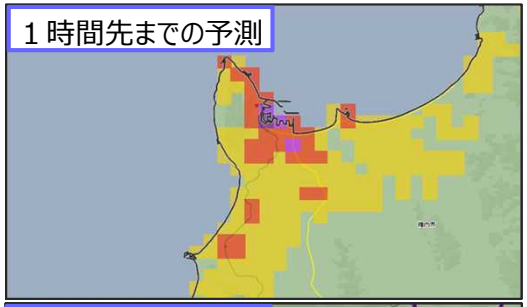
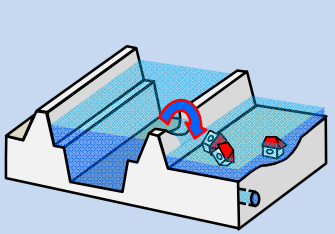
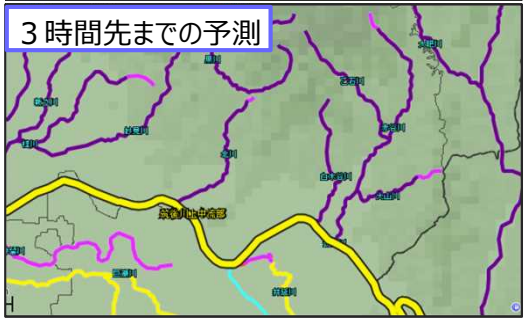
高潮時に浸水のおそれがある区域



高波や高潮による災害の事例

大雨による災害への備え

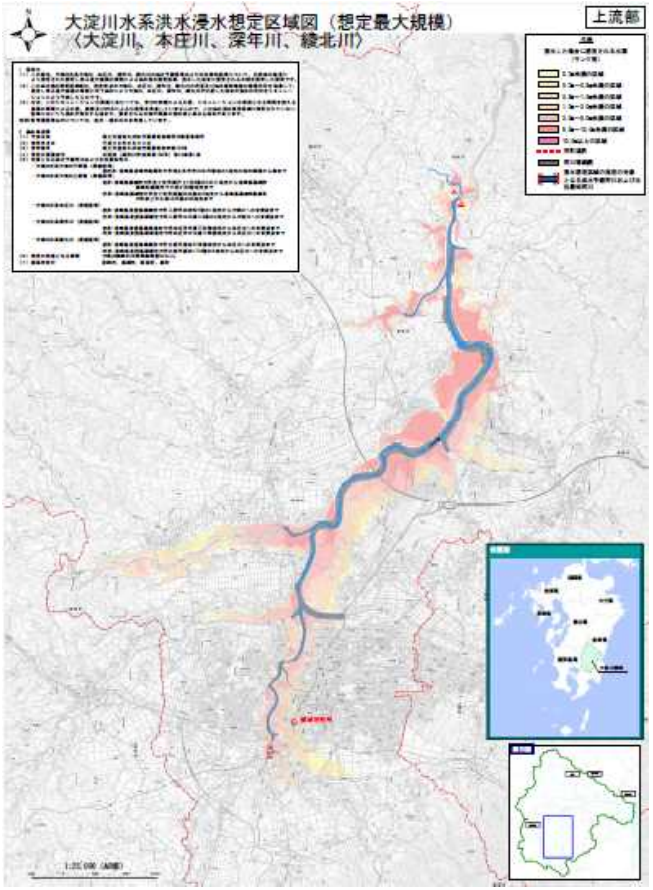
- ハザードマップ等により、土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の命に危険が及ぶおそれがある場所をあらかじめ確認しましょう。
- 土砂災害・浸水害・洪水災害の危険度がどこで高まる予測となっているかを「危険度分布」の地図で確認することができます。
- 大雨により命に危険が及ぶおそれがある場所では、風雨が強まる前の早めのタイミングで対応をとることが重要です。風雨が強まるタイミングは、市町村毎に発表される警報・注意報で確認することができます。

	命に危険が及ぶおそれがある場所	危険度分布	災害の例
土砂災害	 土砂災害警戒区域等	 2時間先までの予測	
浸水害	住宅の地下室や道路のアンダーパス等	 1時間先までの予測	
洪水災害	 浸水想定区域や山間部を流れる中小河川沿い等	 3時間先までの予測	

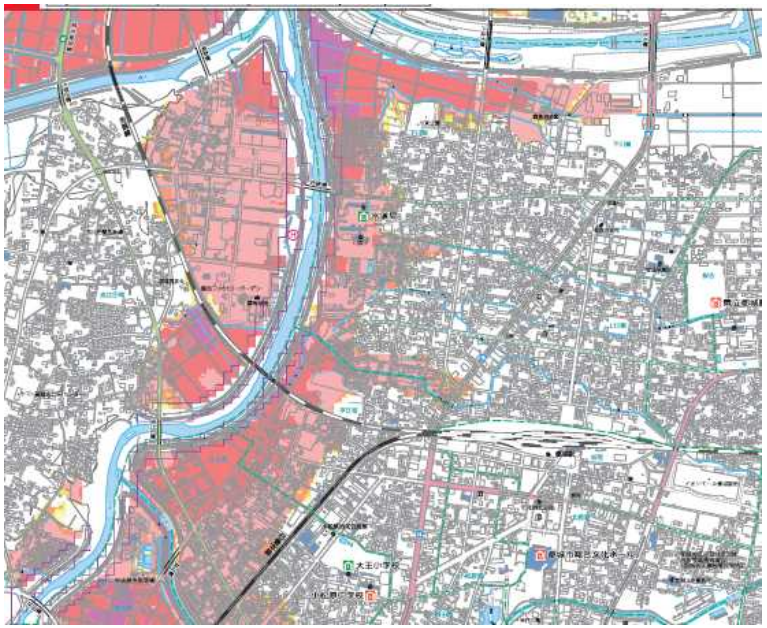
洪水浸水想定区域と洪水ハザードマップ

- 国土交通大臣又は都道府県知事が洪水浸水想定区域を指定・公表
- 市町村長がこれを基に洪水予報等の伝達方法や避難場所等も記した洪水ハザードマップを作成・周知

＜大淀川洪水浸水想定区域図（国土交通省）＞



＜洪水ハザードマップ（都城市中心部）＞



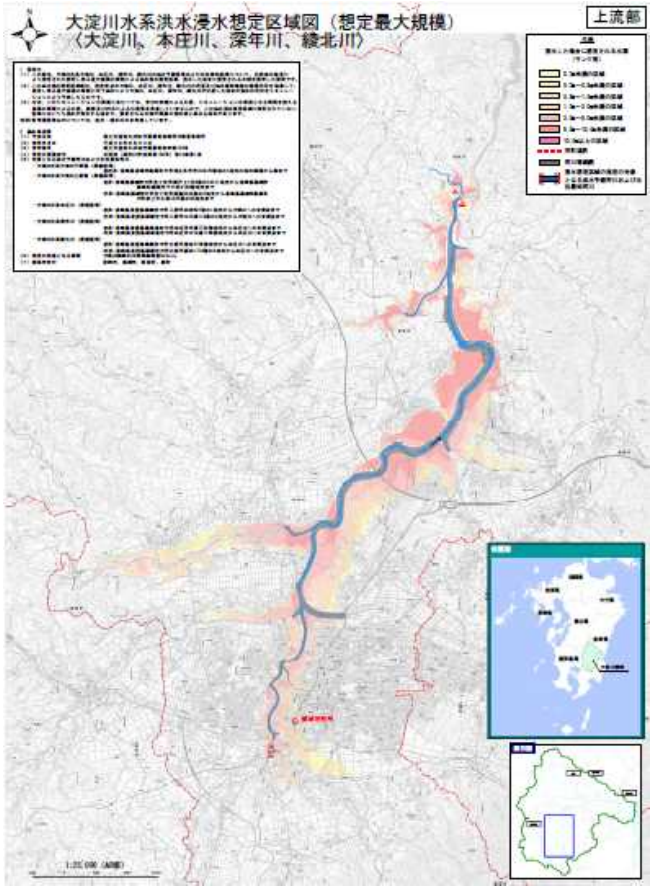
＜洪水ハザードマップの周知＞
市町村地域防災計画に以下を位置づけ、
洪水浸水想定区域とあわせて住民等に周知
- ✓洪水予報及び水位到達情報の伝達方法
- ✓避難施設その他の避難場所及び避難路その他の避難経路に関する事項
- ✓避難訓練の実施に関する事項
- ✓浸水想定区域内にある地下街等、要配慮者利用施設、大規模工場等の名称及び所在地　　等

洪水ハザードマップ
作成済みの市町村数
1,333

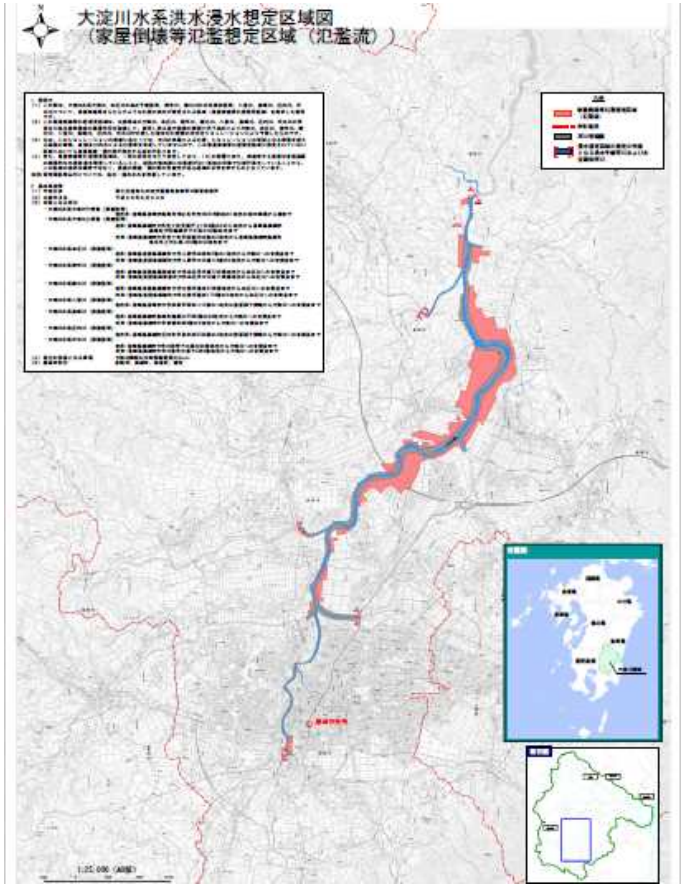
洪水浸水想定区域と家屋倒壊等氾濫想定区域

- 国土交通大臣又は都道府県知事が洪水浸水想定区域を指定・公表
- 「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、堤防沿いの地域等において、洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫流等が発生するおそれが高い区域。
- この区域では、洪水時には避難勧告等に従って安全な場所に確実に立退く必要がある。

＜大淀川洪水浸水想定区域図（国土交通省）＞



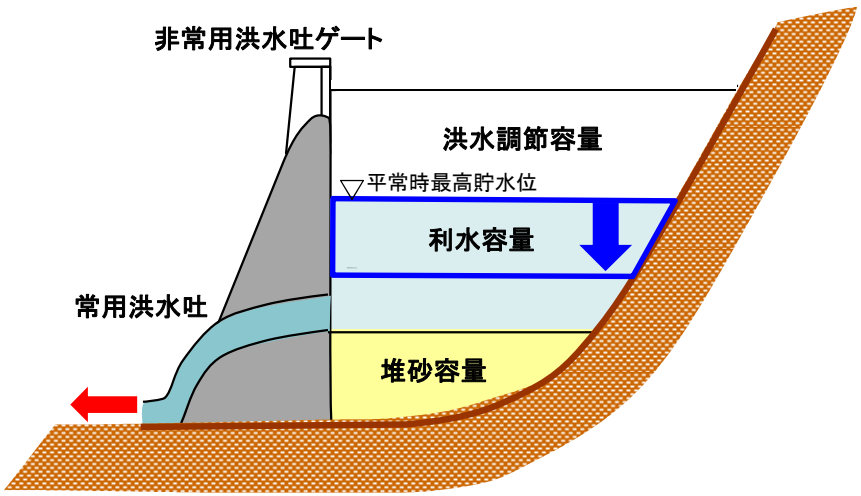
＜大淀川家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流））＞



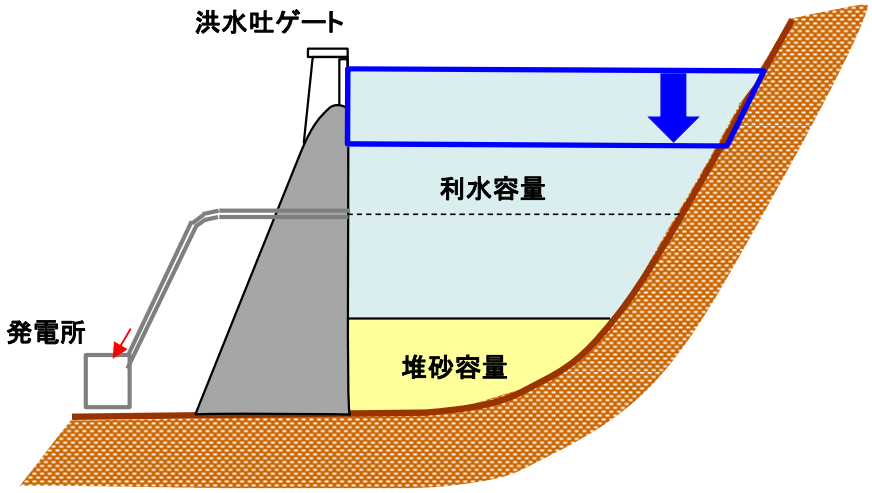
事前放流

利水者の協力のもと、利水のための貯水を事前に放流してダムの貯水位を低下させ、一時的に治水のための容量を確保するもの

多目的ダム事前放流

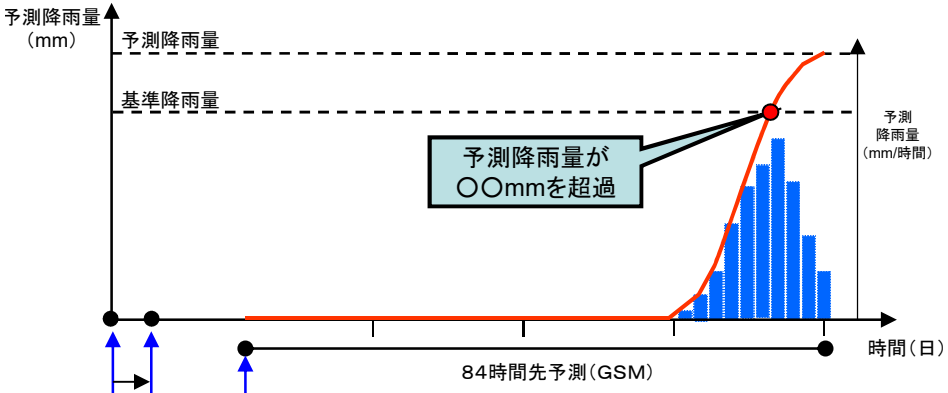


利水ダム事前放流



事前放流の実施フロー

○事前放流の実施判断



④事前放流の開始

③ ・予測降雨量が基準降雨量(○○mm/▲日間)を上回り、ダム管理者が事前放流の実施を決定
・ダムの流入総量を予測し、貯水位低下量（約××万m3を水位に換算）を算定

②・河川管理者が、ダム管理者へ、①の情報を提供し、事前放流を実施する態勢に入るよう伝える
・ダム管理者が国土交通省のシステムにアクセス し、予測降雨量を注視

①気象台が「台風に関する全般気象情報」や「大雨に関する全般気象情報」を発表

※小規模な農業用ダム等については、季節ごとにあらかじめダムの水位を低下させておくなどの運用（簡易な事前放流）を行う。

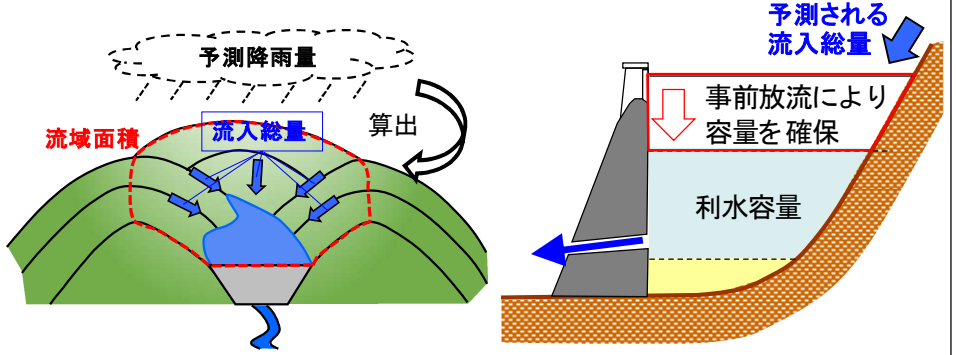
【基準降雨量】

ダム上流域で基準降雨量(○○mm/▲日間)上回るとき、
下流河川において、氾濫するおそれがある危険な状態となる

【貯水位低下量】

予測降雨量をもとにダムの流入総量を算出し、事前放流により確保する容量として、約××万m3を算定し、これを貯水位に換算

⇨ ××万m3の容量を確保するべく水位低下



関連資料の掲載場所

今後の予想を含めた最新の情報は、以下からご利用ください。

○ 気象警報・注意報（大雨、洪水、暴風（雪）、波浪、高潮、大雪などによる災害への警戒・注意を呼びかける）
https://www.jma.go.jp/jp/warn/

○ 危険度分布（どこで土砂災害、浸水害、洪水の危険度が高まると予測されているかを地図上で表示）
土砂災害　https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/
浸水害　https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html
洪水　https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html

気象庁HPのバナーをご利用ください。

○ 各地の気象情報（気象概況や大雨の見通し）
https://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/

○ 台風情報（台風の位置・強さ・速度などの解析・予報、大雨や暴風の見通し）
https://www.jma.go.jp/jp/typh/
https://www.jma.go.jp/jp/typh/typh_text.html

○ 指定河川洪水予報（国や都道府県の管理する主な河川の氾濫の危険度を予測）
https://www.jma.go.jp/jp/flood/

○ 土砂災害警戒情報（命に危険が及ぶ土砂災害の発生が切迫したときに厳重な警戒を呼びかける）
https://www.jma.go.jp/jp/dosha/

気象庁防災情報 Twitter
@JMA_bousai
気象庁公式の防災情報アカウントを開設しました。台風接近や大雨のおそれがある場合等に、現況や今後の見通し、防災上の留意点、緊急会見の内容等を解説します。

○ 最新の気象データ（雨雲の動き、レーダー・ナウキャスト（降水・雷・竜巻）、今後の雨、雨や風の観測データ、衛星画像）
https://www.jma.go.jp/jp/highresorad/
https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/
https://www.jma.go.jp/jp/kaikotan/
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/pre_rct/index24_rct.html
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/wind_rct/index_mxwsp.html
https://www.jma.go.jp/jp/gms/

○ 14か国語による防災気象情報の提供
https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/multi.html

● 避難行動判定フロー・避難情報のポイント（内閣府（防災担当））
http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/pdf/campaign.pdf

● 新型コロナウイルス感染症が収束しない中での避難について（内閣府（防災担当）・消防庁）
http://www.bousai.go.jp/pdf/colonapoint.pdf

川の防災情報

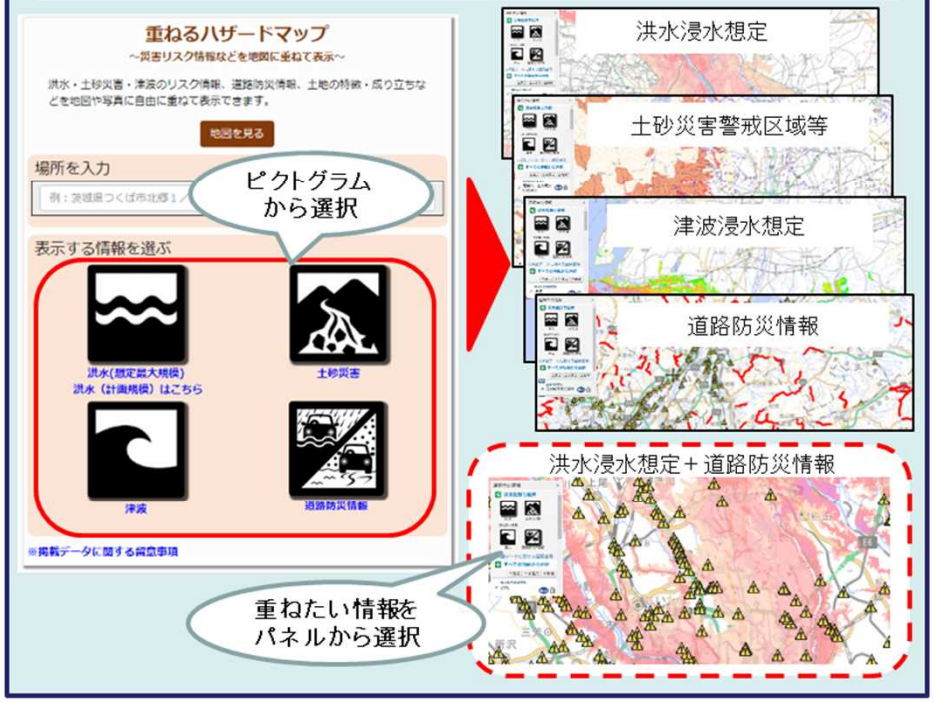
○洪水予報や河川の水位等は「川の防災情報」で確認できる。サイトは「川の防災情報」で検索できる（http://www.river.go.jp/）。※スマートフォンは http://www.river.go.jp/s/。

ハザードマップポータルサイト

- 国土交通大臣又は都道府県知事が洪水浸水想定区域を指定・公表
- 「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、堤防沿いの地域等において、洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫流等が発生するおそれが高い区域。
- 災害から命を守るためには、身のまわりにどんな災害が起きる危険性があるのか、どこへ避難すればよいのか、事前に備えておくことが重要。
- 国土交通省では、防災に役立つ様々なリスク情報や全国の市町村が作成したハザードマップを、より便利により簡単に活用できるようにするため、ハザードマップポータルサイトを公開中。
- この区域では、洪水時には避難勧告等に従って安全な場所に確実に立退く必要がある。

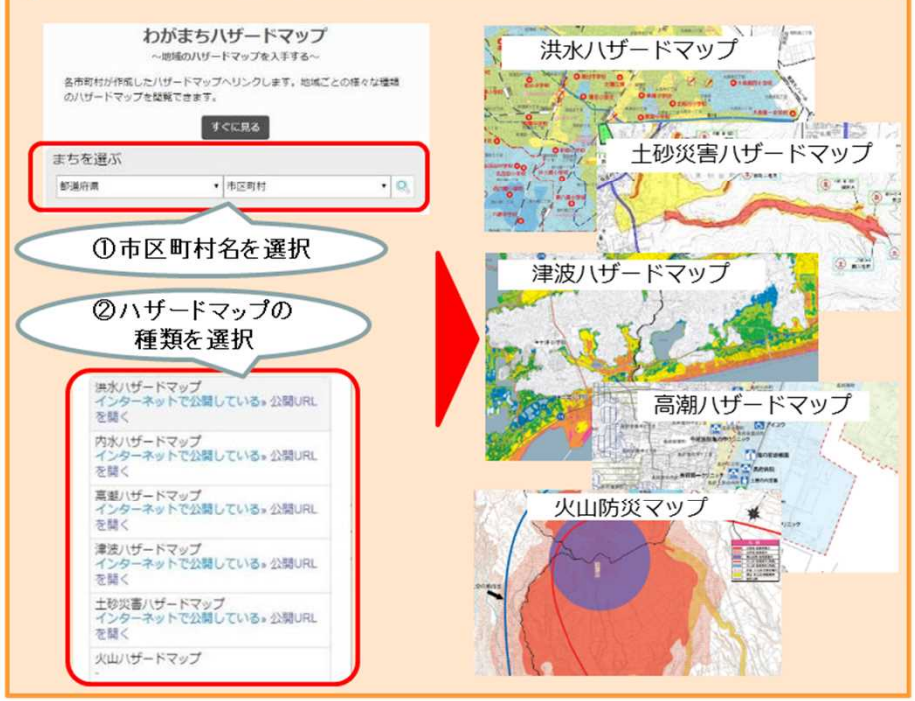
重ねるハザードマップ（平成26年6月～）

防災に役立つ様々なリスク情報を1つの地図上に重ねて表示



わがまちハザードマップ（平成19年4月～）

全国各市町村のハザードマップを検索



ハザードマップポータルサイトhttps://disaportal.gsi.go.jp/

ハザードマップ　検索